



<今月のご案内>

黒松内版 森林療法体験会

おさんぽの会



歌才森林公園のコース(往復約3キロ)を、季節の自然を楽しみながらゆったりとウォーキングします。自然を五感で楽しみながら、心も体もリフレッシュしましょう！ (雨天中止・小雨決行)

【日程】11月9日(日) 10:00~12:00 (目安です)

【集合】黒松内温泉ぶなの森 左側集合

【持ち物】ウォーキングしやすい服装、靴、帽子、飲み物、虫よけ など

【申込み】不要

森へ行こう

歌オブナ林 冬じたく

散策シーズンの終わりを迎え、散策路沿いの道しるべをはずしながら、晩秋のブナ林を観察します。葉が落ちて見通しのよい林内では、カラ類の混群や冬鳥の姿も見られるかも！

【日程】11月22日(土) 9:30~14:30

※予備日：11月23日(日) 同時刻

【集合】歌オブナ林駐車公園

【参加費】300円(ブナさぼは無料)

【持ち物】野外で活動できる服装、長靴、雨具、防寒具、軍手、飲み物、昼食

【申込み】前日17時までにブナセンターへ

【その他】雨天中止。午前中のみ参加も可

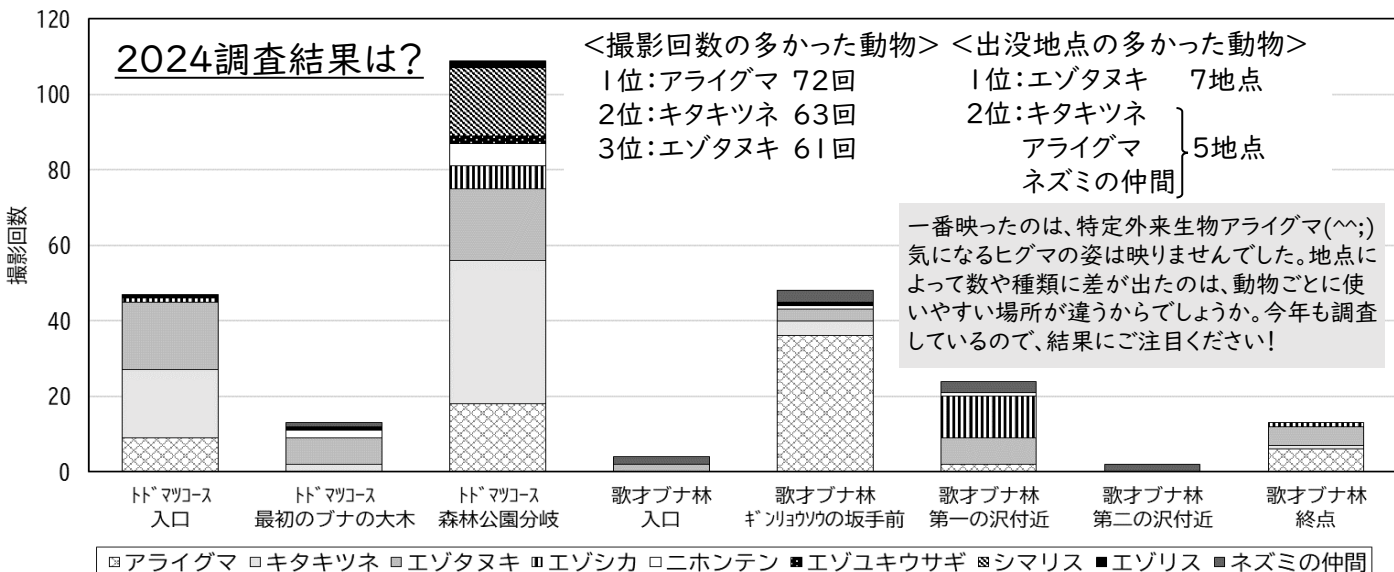
Snapshot Japanの動物モニタリング調査に協力しています！

Snapshot Japanとは？

センサーカメラ(前を横切ると自動で撮影できるカメラ)を使って、9/1~10/31に全国各地の森林・里山・公園等でいっせいに動物のモニタリングを行うプロジェクトです。国立環境研究所が主体となり、2025年は全国62地点で行われました。黒松内では、2024年からトドマツコース・歌オブナ林内の計8か所にカメラをしかけています。

どんなことに使われるの？

継続してモニタリングすることで、そこにすむ動物の種類や数、行動の傾向を把握できます。黒松内でも長く続ければ、有害鳥獣の動向や、木の実なりと動物の行動との関係等が分かるかもしれません。全国で統一された調査手法なので、データの比較や蓄積がしやすく、様々な学術研究への活用が期待されます。



ぜひ遊びにきてください！

11月2~3日 町民総合文化祭に出展します！

- ・陶工房で活動している陶芸クラブの皆さんの作品展示
- ・黒松内山道にちなんだ展示
- ・ヒグマに関する展示

発行所：黒松内町ブナセンター
 〒048-0101 北海道寿都郡黒松内町字黒松内512-1
 TEL 0136-72-4411 FAX 0136-72-4440
 MAIL bunacent@host.or.jp HP https://bunacent.host.jp
 FB https://www.facebook.com/kuromatsunai.bunacent

ヒグマを「正しく、^{おそ}畏れる」

ヒグマ特集VOL.1
「ヒグマの生態」

ヒグマは北海道のどこにでも生息しており、いつも私たちのすぐ隣で暮らしています。黒松内町でも近年、山地、農地、道路沿いと、いたるところで出没が確認されています。むやみに恐れるのではなく、「正しく知り、正しく畏れる」ことが大切です。

「ヒグマがいる」ということ

ヒグマの大きな体は、本来、地域の山々にあるフキなどの植物、ブナなどの木の実、アリなどの昆虫を食べることによって支えられています。つまり、**ヒグマがそこに生きているということは、その土地の自然が豊かである・健全であるということを示します。**

しかし、ここ数年は全道的に農作物の食害や市街地に現れるアーバンベアといった、**人とのあつれきも高まってきています。**その要因としては、**1990年以降、人がヒグマを捕獲する頻度が減り、ヒグマの数が増加傾向にあることや、山間部における建設・工事による生息地の減少などが挙げられます。**

豊かな自然に囲まれながら、ヒグマと生きるにはどうしたらよいのでしょうか？

まずはヒグマの生態を知ろう

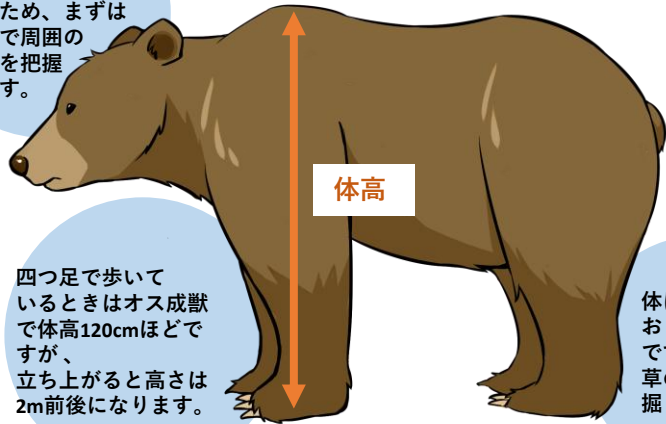
◆からだ

日本で一番大きな陸の野生動物で、**体重（成獣）はメスで100kg～250kg、オスで150kg～400kgほど**になります。大きな体ですが、平地では**時速50～60kmほどで走る**ことができます。

嗅覚と聴覚は優れていますが、視覚はそれほど優れていません。

広範囲を歩きまわり、**数日間で半径10kmはたやすく移動し、特にオスでは数十km単位で動く**こともあるようです。

鼻が大きく、目や耳は小さいです。そのため、まずは匂いで周囲の状況を把握します。



四つ足で歩いているときはオス成獣で体高120cmほどですが、立ち上がると高さは2m前後になります。

体はがっしりしており、爪も大きいです。大きな爪で草の根や冬眠穴を掘ります。

★ヒグマの足跡や、ヒグマのフンのカラー写真は、ブナセンターだよりHP版や館内の展示物で確認できます。

◆雑食性である

植物食を中心とした雑食で、春～夏は草本類（フキやセリなど）、アリなどの昆虫類、秋は木の実（ブナやミズナラの実、コクワやヤマブドウなど）を食べます。

草が硬くなり、食べ物が少なくなる夏には、農作物を食べるために農地へ降りて来ることがあります。

町内の農地では6～7月に小麦、8～9月にデントコーンが食べられることが多いようです。肉類は、簡単に手に入るのであれば積極的に食べるようです。

◆学習能力が非常に高い

ヒグマは**知能が高く、好奇心が旺盛**で、経験・学習を積み重ね、個性が生まれます。そのため、「ヒグマ」とひとくくりにするのではなく、「そのクマはどんなクマか？」というように**個性を見極めて対策を講じる**必要があります。

大きな体を維持するために、その時最も効率よく手に入るものを食べます。**獲物に対する執着心が強く、攻撃的**になります。そのため、人の食べ物の味を知ると、学習し、執着し、はじめは慎重だった行動が一気にエスカレートすることがあります。

ヒグマのあしあと

前足の足跡。とても新しい足跡で爪の鋭さがよくわかる。



2025/4/30茂津多岬
写真：岩部

道路を渡った跡 2019/8/3黒松内



写真：明石義之

前足跡（右）に比べ
後ろ足跡（左）が大きい→



写真：明石義之



写真：明石義之

後ろ足跡アップ

ヒグマのフン

ブナの実を食べたフン



2024/10/28大千軒岳

植物を食べたフン
(フキの茎や繊維がみられる)



2024/8/1黒松内

クルミを食べたフン
(殻が砕かれている)



2024/9/7日高

エゾシカを食べたフン



写真：岩部

2024/9/7日高

ヒグマは雑食・植物食が中心

ヒグマのフンの中身を見ると、季節によって、いろいろな植物を食べていることがよくわかる